

土・まち・みどり

通信 第57号

2014. 10. 30

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆まちめぐり ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて ◆ボタニカルアート講習会(入門編)
◆活動報告 ◆会からのお知らせ

秋のつどいレポート まちめぐり

(樋口一葉が暮らし、「たけくらべ」の舞台になっ
た旧入谷区龍泉寺町界隈を訪ねて)

一昨年度までは山の手に、昨年度は山の手と下町の境ともいえる、明治以来の文教の街本郷菊坂を訪ね、樋口一葉中心に明治の文豪たちが生活した跡を見て歩きました。

今年度は下町の例として、浅草の奥で隣に新吉原を抱え、樋口一葉が一時作家を諦めかけ、菊坂から引っ越し、商売を始め、約9ヶ月を過ごし、後に『たけくらべ』の舞台となった三ノ輪・竜泉・千束入谷界隈を訪ね歩きました。

まずは浄閑寺に行きました。ここは新吉原のただ一つの入り口大門に出る日本堤(現土手通り・音無川)があり、山谷堀経由で大川(隅田川)に注いでいました。引き取り手のない遊女や子どもたちをこの寺に捨てて行きました。着物も剥ぎ取られ、無惨に積み上げられていました。その為「投げ込み寺」と呼ばれ、明治迄にその数2万5千人に及びました。永井荷風等により慰霊塔が建てられています。

次は千束稲荷神社です。『たけくらべ』の始まりは、千束神社夏祭りの夜に横町組(頭の息子で寺子屋から昇格した私立小学校に通う長吉や龍華寺(大音寺がモデル)の長男真如たち)対表町組(金貸しの息子で当時設備の良い公立小学校に通う正太郎や大黒屋の主人公美登利)との子供たちの喧嘩の場面です。元は柳川藩立花家の下屋敷の屋敷

守社でした。

昭和通り(日光街道)から茶屋通りに入ります。この道は明治にはずっと狭かったのですが、山谷堀・日本堤コースと並び、新吉原への通り道で人力車がたくさん通り、一葉は越してきた初めての夜中に何台通るか数え、日記に書いています。そこが一葉が菓子・雑貨屋を開き、9ヶ月を過ごした一葉旧居跡です。近くに同種の店が出来、結局店をたたみ、また借金をし、今度こそ小説に専念しようと決心して、菊坂近くの丸山福山町に引っ越しました。それから1年4ヶ月の間に『たけくらべ』『にぎりえ』等の代表作を立て続けに書き、奇跡の14ヶ月と呼ばれました。そこが昨年のもちめぐりで訪れた一葉終焉の地となりました。

その後、台東区立一葉記念館特別展で14歳から和歌・王朝文学・書道(千蔭流)等の基礎を学んだ萩の舎(師は中島歌子)について展示を見ました。ここは一葉の原稿等遺品を多数収集し、特別展のほか本郷の法真寺と同じように毎年11月23日の命日には一葉祭を開催し、酉の日と重なると5千人以上集まります。

この後、『たけくらべ』最後の場面、酉の市で終わる鷺(オトリ)神社や吉原神社、吉原弁財天、太郎稲荷等を訪ねてまわりました。(赤松)



(浄閑寺慰霊塔)



(千束稲荷神社)



(樋口一葉記念館発行のマップから抜粋)



(吉原弁財天)



(鷺(オトリ)神社)

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「奥沢の実家今昔」

大田区石川町 平井 進

奥沢2丁目にある私の実家は、昭和7年に建てられたもので、祖父が昭和29年に購入しました。

当時の家の一つの典型で、日本建築の母屋に洋風の応接間がつき、垣根の下は芝生の土手で、庭にシユロを植えるというものでした。

庭の築山の横に池があって金魚が大勢いましたが、ある時期サギが来るようになり、かなり減りました。残った金魚は何代にもわたって先祖帰りをし、今では黒いフナに戻っています。池にはカエルが来て卵を産み、春にはオタマジャクシで一杯になります。

戦前の趣としては、女中さんの部屋があり、壁上に家中の部屋の番号を示す盤があって、どこで用事があるかが分かるようになっています。電話部屋があり、壁掛の電話がありました。台所の床下は物入れになっており、冬は冷蔵庫代わりでした。北側の廊下の一側は、納戸と他はすべて押入です。南側に20間ほど廊下があり、朝夕、東西の戸袋から雨戸を出し入れしていました。お手洗いはお客様用と家人用の二つあります。表玄関とは別に裏庭に通ずる内玄関があり、家人が出入りしていたようです。

台所の外に井戸があり、表と裏の庭の入口に木戸があります。女中さんを含めて誰かが家にいることを前提に作られており、外から鍵がかけられるようになっていませんでした。今でも中に入ると、祖父母・両親が暮らしていた時代の時間が流れているような気がします。



(当時のままに保存されている応接間と家具)

「奥沢で生まれ育って」

奥沢1丁目 染野 和夫

私は、昭和20年11月、現住所の奥沢1丁目62番地(当時は、玉川奥沢町1丁目39番地)で生まれ、以来70年弱をこの地で過ごしてきました。

子供時代そして社会人となってからも、転勤等で奥沢を離れることもなく、この地で生活を続けることが出来たことはとても幸運であったと思いますし、特に会社をリタイヤしてからは、会社人間であった頃にはよく分らなかった奥沢の町の良さを知ることができて、愛着を感じています。

私は、昭和27年4月奥沢小学校に入学し、小学校生活をスタートしましたが、翌年の4月からは隣の東玉川小学校の2年生として転校となりました。

当時、奥沢小学校は児童数が年々増加して、二部授業を行わざるを得ない状況となっており、昭和26年4月に東玉川小学校が奥沢小学校の分校として開校しています。しかし開校当初の校舎は1棟のみで、1年生～4年生までの8学級でした。そして翌年昭和27年末に増築校舎が完成、翌28年4月からは1年生～6年生迄の受け入れが可能となって学区が拡張されました。

奥沢1丁目ですが奥沢小学校から遠い場所に住む私はこうして東玉川小学校に転校し、以降卒業までの5年間を同校で過ごす事になりました。

東玉川小学校への転校で一番驚いたことは通学途中の町の様子です。奥沢小学校までの通学路では、途中には商店や住宅が沢山あり、街には賑やかな雰囲気がありました。しかし、東玉川小学校への通学路は全く様子が違っていました。我が家から大音寺付近迄は家並が続いていましたが、大音寺の横を過ぎるとそこから先の東側の呑川方向には田んぼや畑が広がっていて、とてもどかな田園風景です。ですから学校からの下校時には田圃のあぜ道を遊びながら帰ったりしていました。

学校の近くまで行くと家々がありましたが、学校校庭の北側には養鶏場の建物が有り、北風が吹くとニワトリの糞の匂いが漂っていました。学校の校庭の東側や南側も建物は無く、もちろん石川台中学校もまだありません。校庭の東側には、農業用水路が流れていて、ザリガニやオタマジャクシを採ったりしてよく遊びました。

学校からは、東京工業大学のシンボルであった時計塔が遠くにはっきり見えていて、図画の時には時間にはよく写生をしました。

東玉川小学校での5年間は、とても伸びやかな雰囲気の中で、楽しく充実した小学校生活を送れたというたくさんの思い出があります。

この東玉川小学校が、平成13年に開校50周年を迎えるに合わせて、当時PTAの会長をしていた和田秀寿氏や1期卒業生の合志誠治先輩等と相談して、同窓会を立ち上げ、一緒に50周年のお祝いをしました。

現在は、この奥沢の地域で色々な分野での活動をさせていただき、充実した毎日をおくらせていただいております。これからも生まれ育った我がふるさとを大切に過ごしていきたいと思っています。

奥沢の歴史を訪ねてX

奥沢近辺の城址と地名④ その他の城址 (iii)

今回は世田谷城址、奥沢城址以外でその存在が伝えられている城址（砦）を紹介したい。

世田谷区には城址又は砦址と伝えられている物が十数余存在する。そのうち遺構として土塁等が残存しているのは世田谷城址と奥沢城址のみである。

世田谷城址の周りには城址又は砦跡として、烏山城址（砦）、船橋砦、赤堤砦、三宿（多聞寺）砦、弦巻砦、大蔵城（砦）等があるが、世田谷八幡、勝国寺にもいざというときは砦の役目をすると考えられている。

八幡神社は応神天皇・宇佐神宮を総本宮とするが、源氏が守り神とした為関東で勢力を強めた源氏によりたくさん建てられた。世田谷区も足利氏系の吉良氏や源氏出身の徳川氏等の支配を受けているので、50社中12社と多い。神社の系統については別の回にまとめる。

世田谷南部を護る奥沢城周辺を見てみると、南條氏の小谷岡城（兎々呂城・深沢城）、長崎氏の瀬田城（行善寺城）、野毛砦（等々力城）、大平砦、朝鮮丸砦等が伝えられているが、最初の2城以外は不確実である。

三宿城（多聞寺城）については築城年代・築城者とも一切不明である。城域についても多聞小学校の辺りということしかわかっていない。

しかし、北沢川と烏山川とが合流し目黒川になる崖線の端に当たり、築城の適地であるとみられるし、明治42年陸地測量部一万分の一地図に土塁と思われる記載が見られるので、砦が存在したことは間違いないと考えられる。

この砦は世田谷城に近く出張りの砦と考えられるので、記録には残されていない。ただ、ここにあった多聞寺は赤堤砦址の善性寺、砦址の円行院が、砦址といわれている勝国寺の末寺であることから世田谷城域外砦の可能性が高いと考えられる。

北、東、南の三方向に川が流れ崖線を作っているため、後は西の尾根であるが、現在も三宿神社と三宿の森公園脇に深い切り通し道があり、少数兵力で防御が可能となり、かなり要害と言えそうである。

この近くに池尻という地名が残っており、縄文海進の後の海退時にできた塩水溜まりが淡水池になっ

（私たちの住むまち奥沢の成立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。）

たとえられているので、築城当時は水田というより池ないしは沼地であったのではないだろうか。ちなみに貞亨元年（1684年）には池尻村と代田村の新田開発が行われている。

瀬田城は後北条氏の家臣長崎隠岐守重高が永禄年間初期に築城した城である。

長崎氏は平姓で、鎌倉内管領長崎四郎左衛門の末裔で、三郎左衛門重忠のとき北条早雲に属し、豆州那賀郡姪島1万貫の地を領した。子孫は代々北条氏に仕え、4代目が重高になる。長崎土佐守は永禄4年長尾景虎・上杉憲正の小田原攻めで籠城して功をなし、感状を得ている。

重高は小田原の道栄寺を瀬田村に移し行善寺とし、天正8年北条氏滅亡後は瀬田村に土着した。子孫は代々名主・年寄役を世襲した。

城域については行善寺の辺りといわれているがはっきりしない。新編武蔵風土記稿には「今城跡を伝えず」と書かれている。南北は急峻な崖であるが、東西は平地が続いている。

しかし、明治40年の測図及び大正6年の測図から考えると、北側にある半島のくびれに当たる部分以外は急峻な崖に囲まれていることがわかり、このレモン型の台地全体を少ない兵力で守ることが出来る。くびれ部の幅が狭く、騎馬部隊の車懸かり戦術が用いにくく、側面から矢を射られ易い。（赤松）



三宿砦址（多聞寺砦址・現三宿神社）



瀬田城址（現ゴルフ練習場）

ボタニカルアート講習会（入門編）報告

既にシェア奥沢でボタニカルアートの講習会を実施している講師の千葉雅子さんから、ボタニカルアートの入門編を、フラワーアレンジメント講習会と同様に、土とみどりを守る会で教えてはどうかとの提案がありました。ボタニカルアートは土みどりの活動の趣旨に相応しいものと考え、今回試験的に実施しました。

10月2日（木）の10時から2時間半からシェア奥沢で12名が参加して行われました。先生から

配られたし詳しい資料を使い、「西洋なし」を画題に、先生が各生徒に丁寧に指導して、2時間程で完成しました。作品を写真に撮りプロジェクターに映し出し、お茶とお菓子楽しみながら、先生が講評するという当会らしい講習ができたと思います。

講習後のアンケートでは、殆どの参加者が継続を希望しており、2名の方が本コースへの参加することになりました。開催日等の課題等を解決しながら、継続実施ができることがわかりました。（鈴木）



（講師の千葉雅子さん）



（作品例）



（講習風景）

活動報告

- 第3回地域風景資産に選定された「鷺草伝説ゆかりの奥沢城址のある風景」に関わる活動の一環として、サギソウ栽培をトライしました。栽培してみると意外に難しいことが分り、等々力溪谷保存会副会長でサギソウ栽培の名人である吉村俊雄のご指導を頂き、改善策を学びました、有難うございました。
- 10月18-19日の奥沢文化祭に、地域風景資産とまちめぐり（樋口一葉が過ごした三ノ輪、入谷）等の会の紹介展示を行いました。
- 主に奥沢2丁目の道路側に置かせて頂いているチェリーセージ（当会のシンボルフラワー）プランター約100鉢の剪定、土替え、施肥を行いました。

会からのお知らせ

- 晩秋のつどいは、11月23日（日）午後1時半から、「シェア奥沢」で行います。お話しは中田哲也さんの「江戸東京野菜」、奥沢コンサートは、常盤正徳さんのピアノと御宿弥寿子さんのヴォーカルです。（詳細はチラシ等でご案内します）。
- フラワーアレンジメント講習会を、12月13日（土）午後1時半から奥沢東地区会館で開催します（詳細はチラシ等でご案内します）。
- 今年も街の落ち葉掃きを奥沢交和会と協働で行います。奥沢1、3丁目（奥沢小学校と協働実施11/28、12/2、4）、奥沢2丁目（12/5、6、7、

12）の計7回、7:30-8:30です（詳細は掲示板とチラシでお知らせします）。皆様、ご参加下さい。

- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞご協力をお願い致します。入会のご相談は下記へお寄せ下さい。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901
世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659
ホームページ : <http://tsuchimidori.net>
e-mail : info@tsuchimidori.net